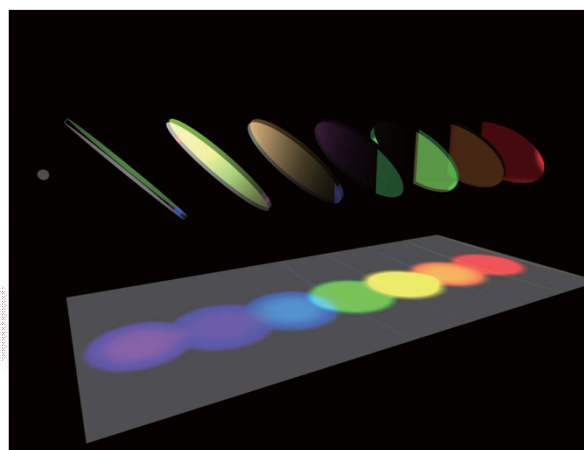
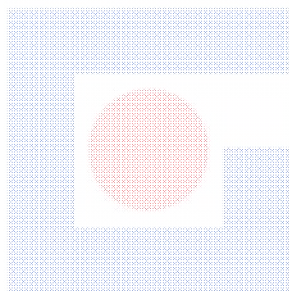


2012年3月期 決算説明会

(2011年4月1日～2012年3月31日)



薄膜技術を駆使した光学フィルター

日本電気硝子株式会社
2012年5月1日

12/3期 連結決算のポイント

概 況	景気動向 ■ 世界： 欧州は政府債務問題で停滞、中国は成長ペースが鈍化、米国は緩やかに回復 ■ 国内： 震災復興に向かう中、緩やかに持ち直し 製造業を取り巻く環境は、為替・電力・原油高など諸問題を抱え厳しい FPD業界 ■ テレビ・PC不振 ⇄ スマートフォン・タブレットは健闘 ■ パネル市場の調整長期化により需給バランスが崩れ、パネルメーカーの損益が悪化 ➤ 厳しい局面が続く
業 績	売上高 3,382億円（前期比 519億円 減収） 営業利益 616億円（同 558億円 減益） ■ 2Q以降、液晶用の販売が計画を下回り、競争激化により価格が想定以上に下落 ■ 薄板対応を含む設備の改修・改善により稼働減となり、また、生産改善に時間を要す ■ PDPやガラスファイバでも需要が減少し、生産調整で損益悪化。PDPは設備を減損 ➤ 業績は右肩下がりで推移
配 当	期末8円（年間15円 前期比＋2円） ※8期連続増配

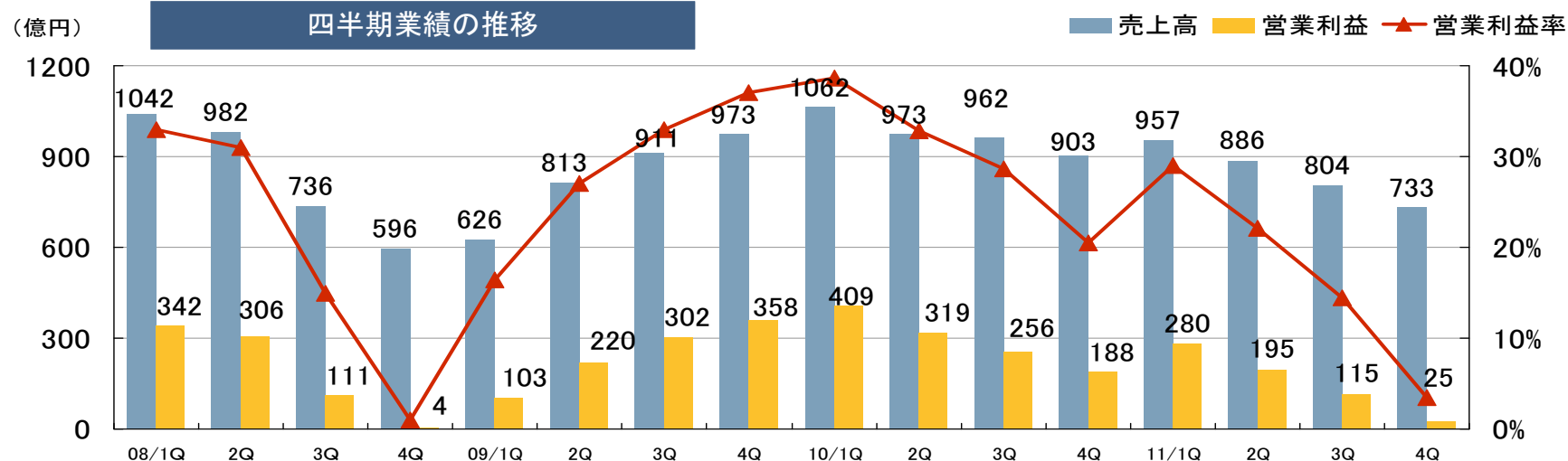
連結損益計算書

	11/3期	12/3期	増減(%)
売上高	3,901	3,382	△ 13
営業利益	1,174	616	△ 48
経常利益	1,142	568	△ 50
特別損益	△24	△200	
税前利益	1,118	367	
純利益	686	194	△ 72
包括利益	675	148	△ 78

四半期を追って業績減速

1Q	FPD需要持ち直し、回復基調示す
2Q	得意先の需要減少、減速に転じる
3Q	価格下落、稼働減、費用増
4Q	市場の調整長期化、設備改修・立上げ負担 生産改善計画に遅れ

特損：減損損失 △176億円、競争法関連損失 △47億円



製品別の状況

(単位: 億円)

		11/3期	12/3期	増減 (%)
ガラス事業	電子・情報	3,285	2,724	△ 17
	その他	616	657	7
合 計		3,901	3,382	△ 13

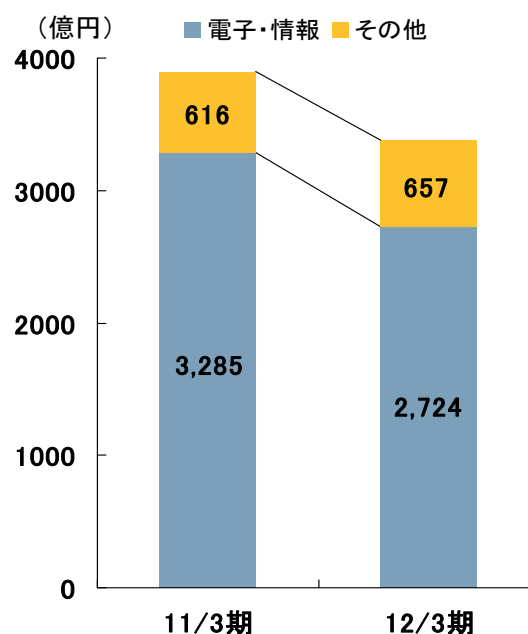
■ 電子・情報

ディスプレイ	2Q以降、販売減速、競争激化
電子部品	光: 2~3Q調整も底堅い販売 イメージセンサ: 一眼カメラ向け堅調

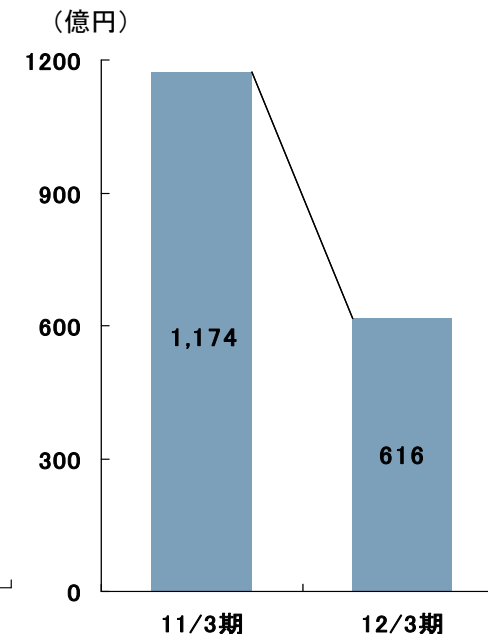
■ その他

ガラスファイバ	夏場より期末にかけ市場調整
建築・耐熱他	全体に販売低調

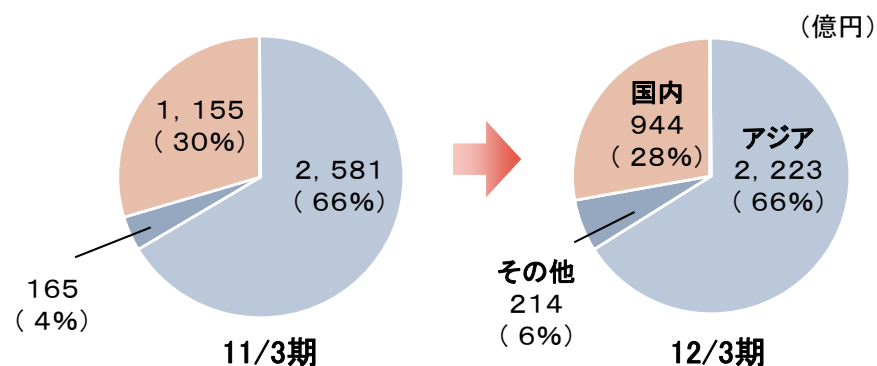
売上高



営業利益



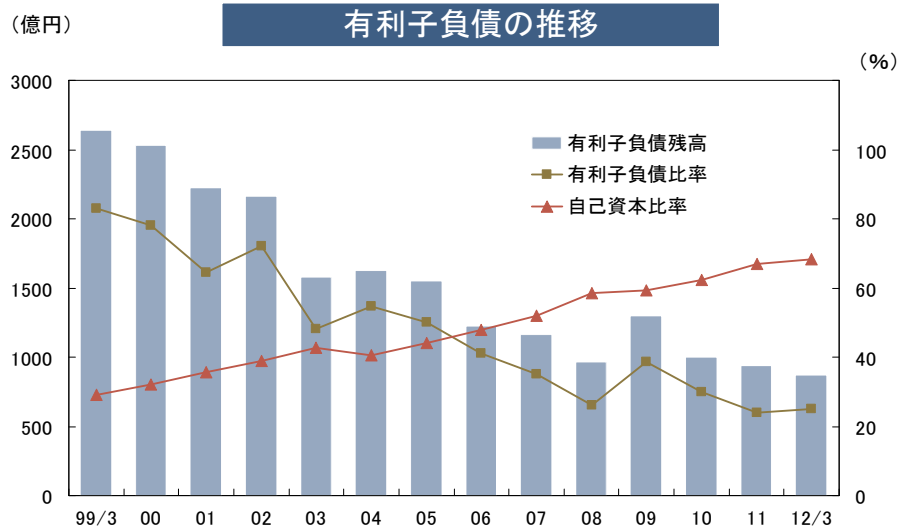
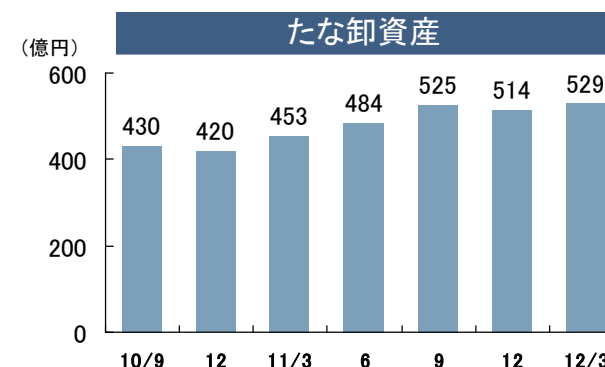
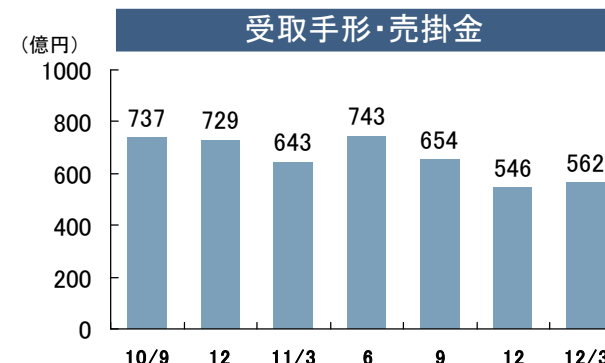
海外売上高



連結貸借対照表

(単位: 億円)

	11/3末	12/3末	増減		11/3末	12/3末	増減
流動資産	2,389	2,244	△144	負債	2,245	2,113	△132
現金・預金	1,188	1,058	△129	支払手形・買掛金	427	412	△15
受取手形・売掛金	643	562	△81	借入金	942	868	△74
たな卸資産	453	529	75	未払法人税等	154	20	△134
その他	103	94	△9	特別修繕引当金	297	334	36
				その他	423	478	55
固定資産	4,537	4,626	89	純資産	4,680	4,757	76
有形固定資産	4,174	4,203	28	株主資本	4,696	4,820	124
無形固定資産	13	14	1	その他包括利益累計	△59	△117	△58
投資その他	349	408	59	少数株主持分	43	54	11
合計	6,926	6,870	△55	合計	6,926	6,870	△55



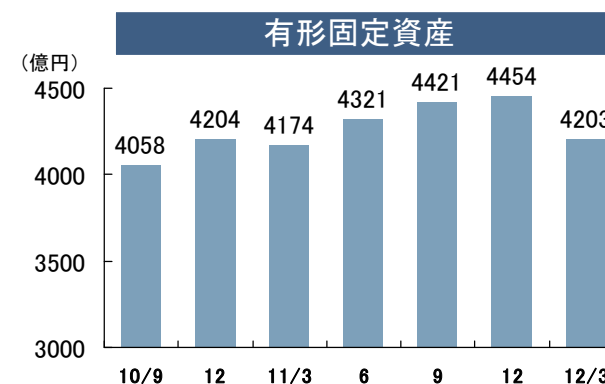
12/3の状況

有利子負債

868億円
(11/3末比 △74億円)

自己資本比率

68%
(11/3末 67%)

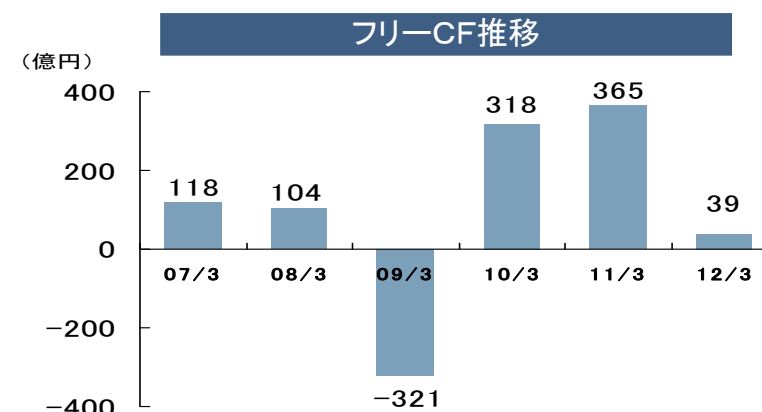
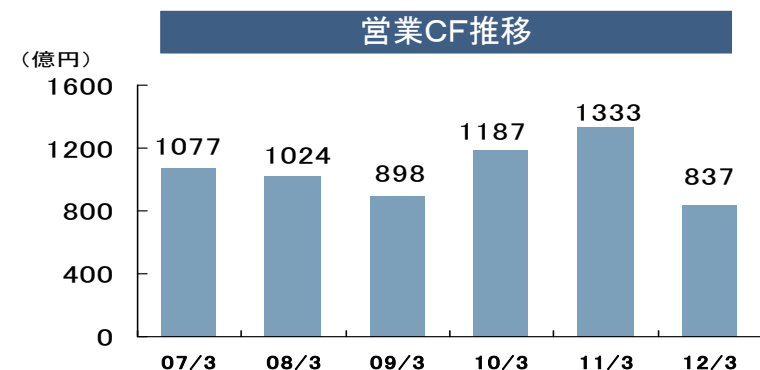


5

連結キャッシュフロー計算書

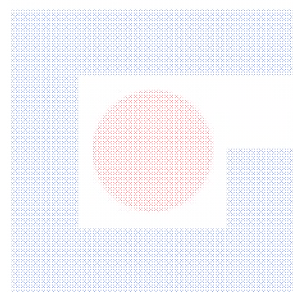
(単位: 億円)

	11/3期	12/3期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,333	837	△496
税前利益	1,118	367	
減価償却費	526	547	
売上債権の増減額(△は増加)	150	76	
たな卸資産の増減額(△は増加)	△86	△81	
仕入債務の増加額	60	△14	
法人税等の支払額	△540	△329	
その他	104	270	
投資活動によるキャッシュフロー	△968	△798	169
固定資産の取得による支出	△956	△784	
その他	△11	△13	
財務活動によるキャッシュフロー	△117	△147	△29
長短借入金の増減額(△は減少)	△55	△74	
配当金の支払額	△59	△69	
その他	△2	△3	
現金等に係る換算差額	△0	△3	
現金等の増減額(△は減少)	246	△111	△358
現金等の期首残高	916	1,163	
現金等の期末残高	1,163	1,052	△111



12/3期 設備投資、減価償却費	
設備投資	987億円 (前期比△113億円)
減価償却	547億円 (前期比+21億円)

課題と業績予想



Nippon Electric Glass

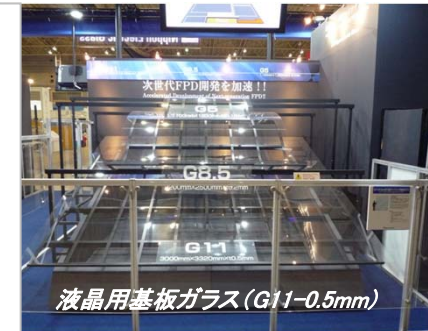
足下の事業環境

全体基調	■ マクロの経済情勢は依然予断を許さず ■ 電子・情報や自動車などの関連市場は回復へ ■ 当社業績も前Qを底に、緩やかな回復基調をたどると予想 ■ 収益性の回復に向けた取り組みを強化
海外展開	■ 新興国をはじめ海外需要は拡大基調。今後の市場動向に柔軟に対応 ■ 液晶(前工程)の海外移管は、継続して検討中 ■ ガラスファイバの海外シフト進む
原燃料・為替	■ 原燃料などの価格上昇を懸念(中東情勢、電力問題、希少資源など) ■ 為替動向も不透明感が強い ➢ FPDは円建取引、為替の直接影響はないが、円高は間接の価格圧力に
電力対応	■ 夏場の電力不足懸念、BCPの一環で対策を講ずる ■ 自家発電設備の増強などを順次実施 ■ 柔軟な生産対応(夏場の電力ピーク期の消費抑えるよう、稼働や工事を工夫)

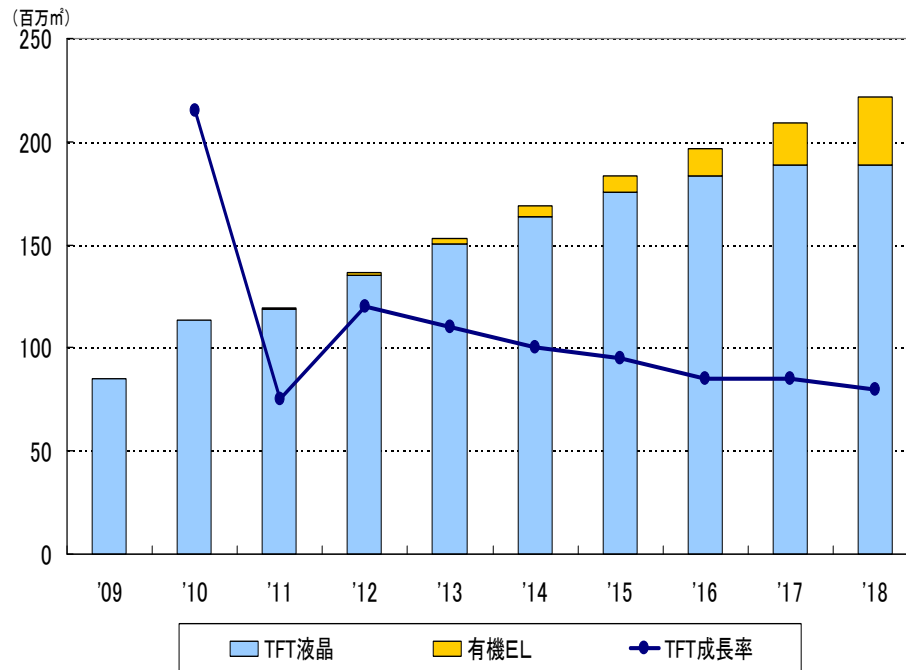
事業別課題(1)

ディスプレイ用ガラス

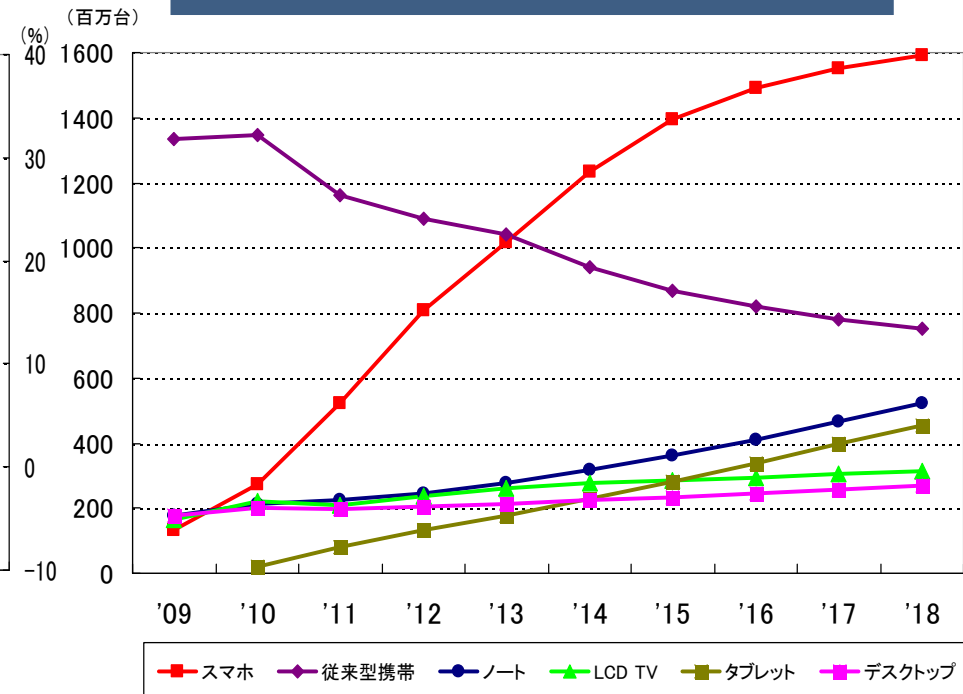
- 薄板(0.5mm)出荷比率は6割半ば、歩留り改善に注力
- 市場動向に沿った生産体制
- 顧客ニーズの高度化に積極対応
(有機EL、3Dや4KTV、高精細IPS、LTPS用など)
- タッチパネルの技術進化に対応



FPD技術別市場予想(面積)



ディスプレイ世界市場予想(数量)



(出所: ディスプレイサーチ)

事業別課題(2)

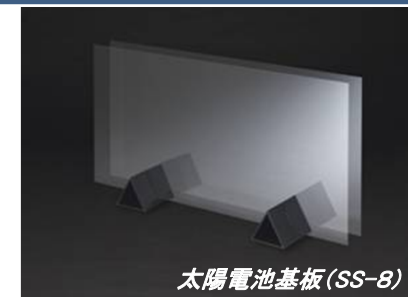
カバーガラス

- 採用機種拡大
- 顧客開拓
- 薄板対応



太陽電池用

- 顧客ニーズへの対応
(品質面・技術面)
- 化合物系太陽電池用
ガラス基板のニーズ取込み



ガラスファイバ

- グローバル企業との
共同開発、拡販
- 車の進化 (PV、EV) に対応、
スーパーエンプラに注力
- 競争力強化 (品質・コスト)



超耐熱結晶化ガラス

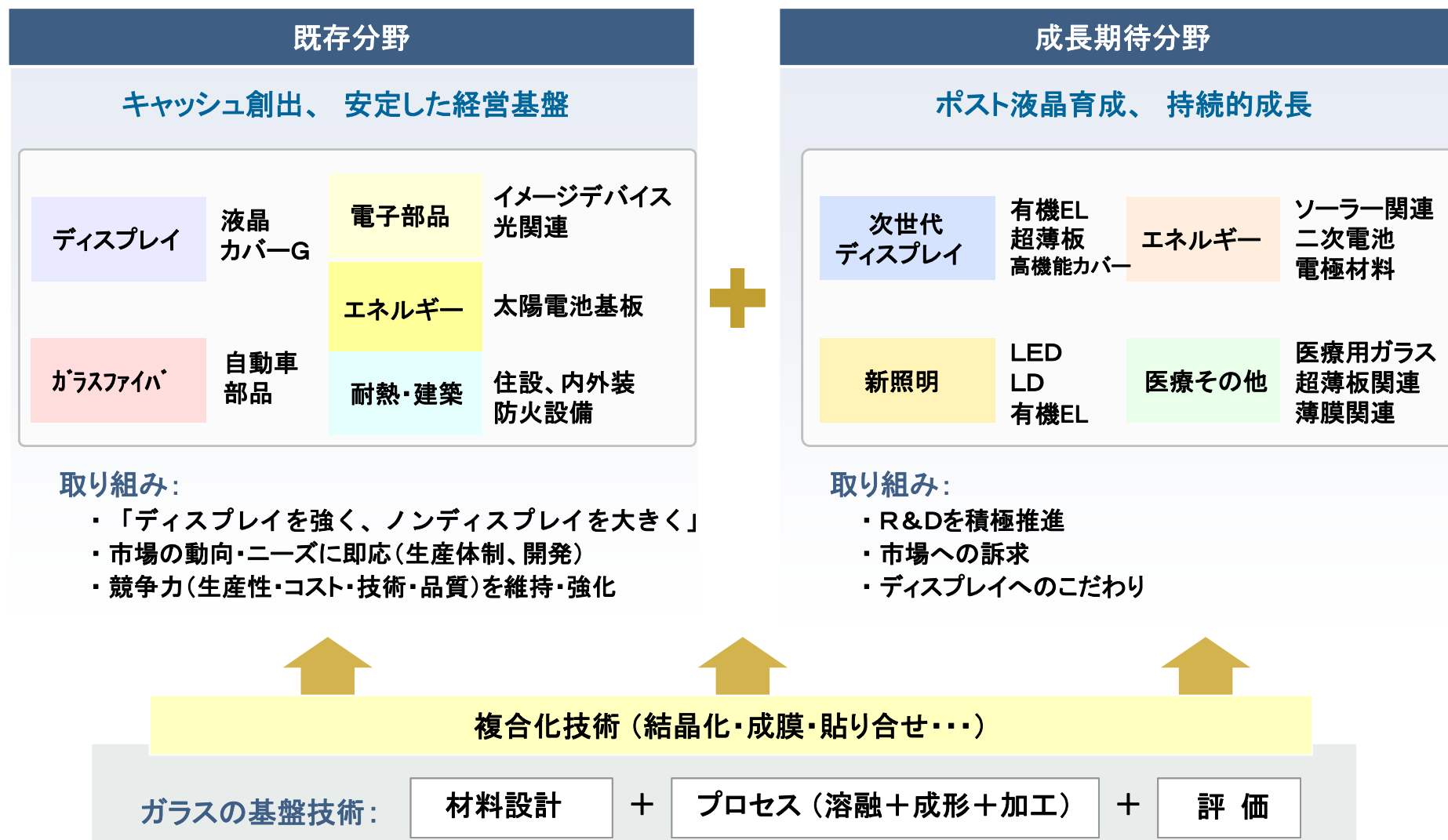
- 衝撃安全性・断熱性に優れた
高機能品 (防火戸) の拡販
- 市場開拓 (海外・国内)



将来を見据えた取り組み(1)

事業展開： 足下

中長期



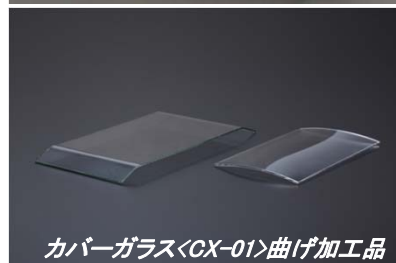
将来を見据えた取り組み(2)～成長期待分野の現状

次世代ディスプレイ

- 超薄板ガラス:
→ロール技術・用途の開発
- 高機能カバーガラス:
→高付加価値化を進める



超薄板ガラスロール



カバーガラス<CX-01>曲げ加工品

新照明

- 蛍光体ガラス:
(高輝度照明用)
→車載向けに続き、
他の分野へも展開
- 有機EL照明:
→開発推進、
顧客ニーズに対応



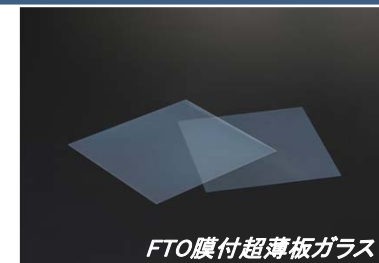
高輝度照明用蛍光体ガラス



有機EL照明用基板ガラス

エネルギー

- 太陽電池用基板:
→高機能ミラーや
複合電池、色素増感
向けなどの開発推進
- 電極材料:
→正極材、負極材の
研究開発推進



FTO膜付超薄板ガラス



電極材料

医療その他

- LXプレミアム(放射線遮蔽用):
→高度医療施設向けに拡販
- 液晶レンズ:
→製品化に向け開発加速
- 超薄板ガラス-樹脂積層体:
→量産技術の確立



LXプレミアム施工例



液晶レンズ

将来を見据えた取り組み(3)～当社の強みを活かした薄膜事業の展開

当社の強み

- 精密な膜厚制御と多層成膜技術 — 「見えないガラス」など高いパフォーマンスを実現
- 大型基板成膜に強み — メーター角基板などの成膜にも対応
- 豊富なガラス・ラインアップ — 求められる特性や機能の実現に最適な薄膜とガラスを組み合わせ、高技術・高付加価値を追求

成膜技術

精密膜厚制御

多層成膜技術

大型基板成膜

ガラス材料

- 超薄板
- 光学用
- 化学強化
- 超平面・平滑
- 耐熱 他

複合製品

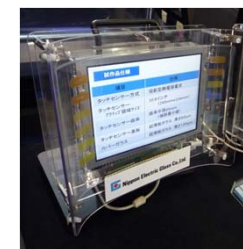
- 「見えないガラス」
- 超薄型軽量ミラー
- 各種光学フィルター
- 曲面タッチパネル用ガラス
- FTO膜付基板ガラス
- 熱線反射膜付ガラス 他



■ 見えないガラス
(ガラス + 反射防止膜)



■ 超薄型軽量ミラー(JAXA宇宙太陽光発電用)
(超薄板+反射膜)



■ 曲面タッチパネル用ガラス
(超薄板+タッチセンサー電極)

連結業績予想

(単位: 億円)

	12／3期				13／3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q(予想)
売上高	957	886	804	733	700～800
営業利益	280	195	115	25	25～75
経常利益	275	182	86	24	15～65
純利益	136	112	25	△ 80	5～35

業績予想のポイント

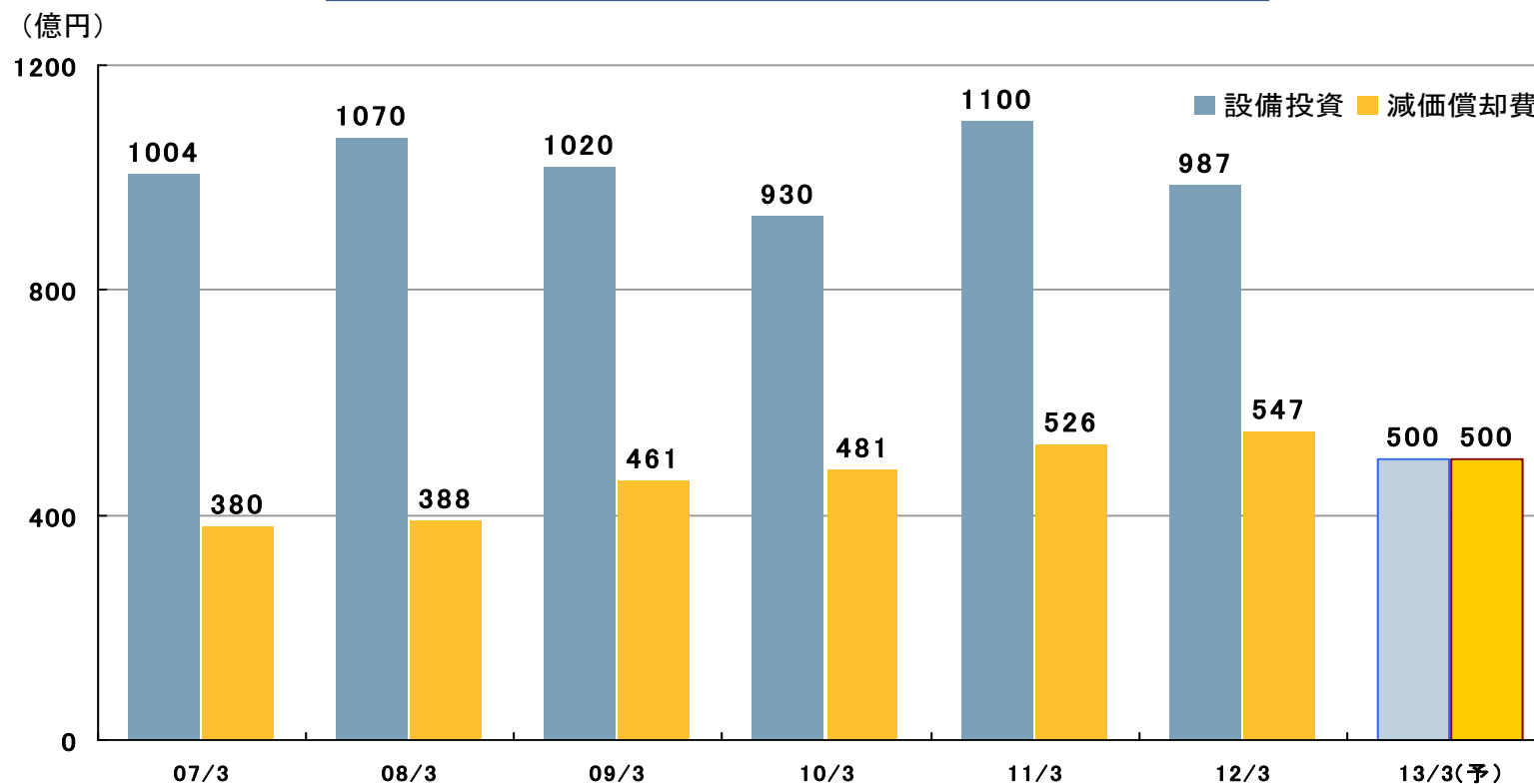
- 液 晶: 収益は緩やかな回復を見込む。価格動向は予断を許さないものの、前Qと比べマイルドな下落を想定。薄板の歩留まり改善がカギ
- フロート: 固定費負担減で損益改善を見込むが、PDP需要減少により厳しい運営が続く
- 電子部品: 回復基調をたどると予想
- ガラスファイバ: 需要好転、稼働も回復へ。先行き緩やかな収益改善を見込む
- 費用その他: 新年度入りで償却負担は減少。一方で原燃料価格は上昇



2Qにかけても、業績は緩やかな回復をたどるものと予想

設備投資・減価償却の見通し

設備投資・減価償却費



設備投資

設備は増やさず、最新ラインに置き換え(ガラスの進化・高品位化に対応)
総額は、減価償却費並みに絞り込む予定

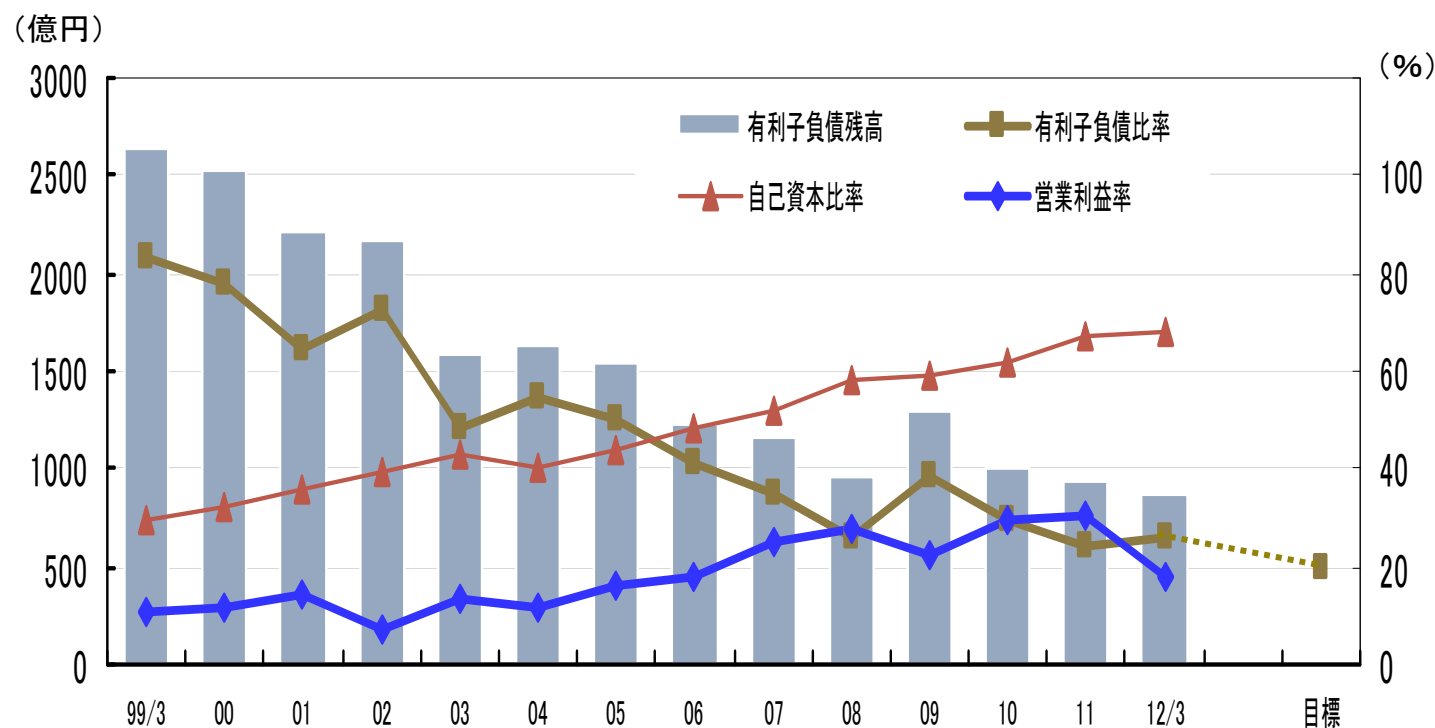
減価償却費

年間500億円程度を見込む

財務体質の強化

財務の基本方針

- 経営全般の効率化追求、キャッシュフロー重視
- タイムリーな設備投資
- 今後の資金需要を勘案しつつ、有利子負債削減を推進

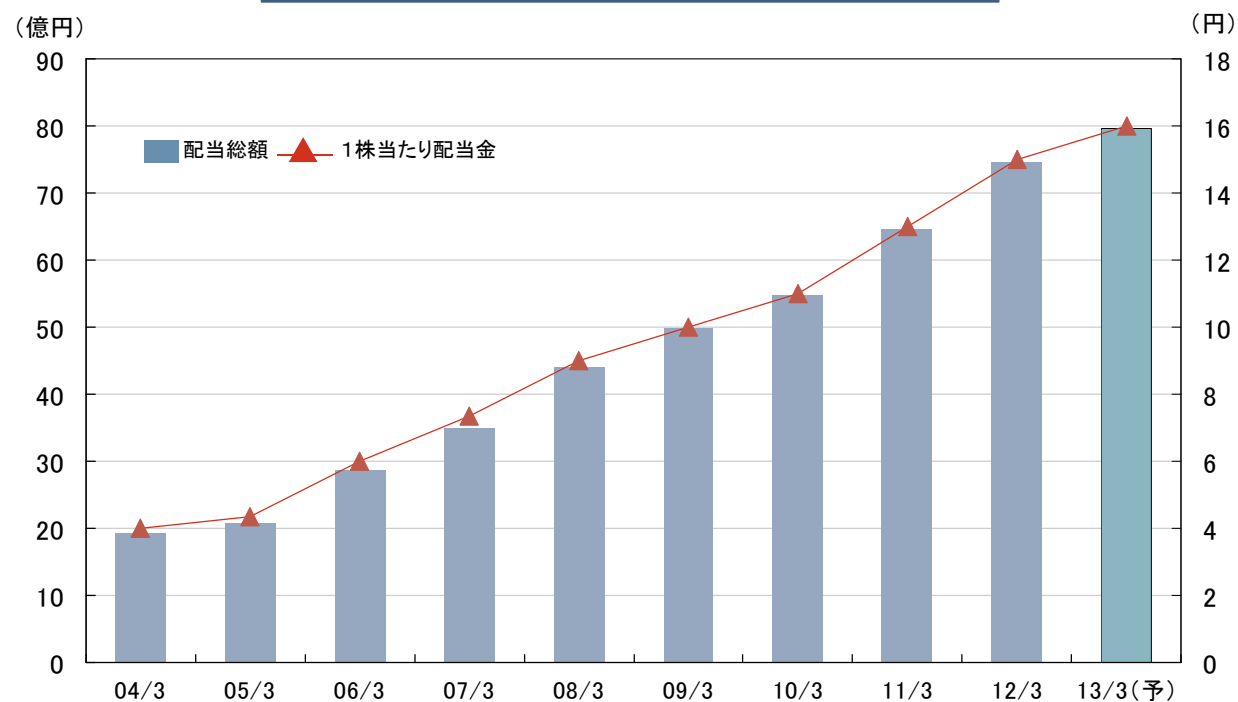


12/3 の状況	有利子負債比率	26% (11/3末 24%)
	自己資本比率	68% (" 67%)
	営業利益率	18% (" 30%)

配当について

利益配分の 基本方針	■ 内部留保(企業体質強化、将来への備え) ■ 長期的に安定した利益の還元
2013年3月期 配当予想	■ 中間・期末とも、8円／株（年間配当16円） ■ 前期に比べ、1円増配 9期連続増配見込み

配当の推移



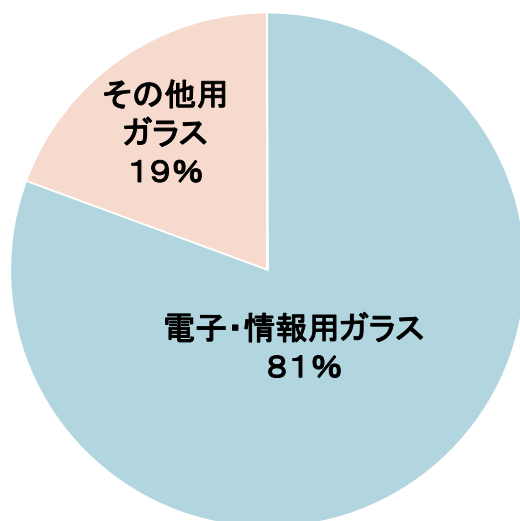
(注) 各期を比較しやすいよう株式分割による影響を遡及して調整の上記載

(参考)日本電気硝子の概要

社名	日本電気硝子株式会社
本社所在地	滋賀県大津市
創立年	1949年
資本金	321億円

事業内容	特殊ガラス製品およびガラス製造機械の製造・販売
事業場	大津／藤沢／滋賀高月／能登川／若狭上中／ 精密ガラス加工センター
連結子会社	21社

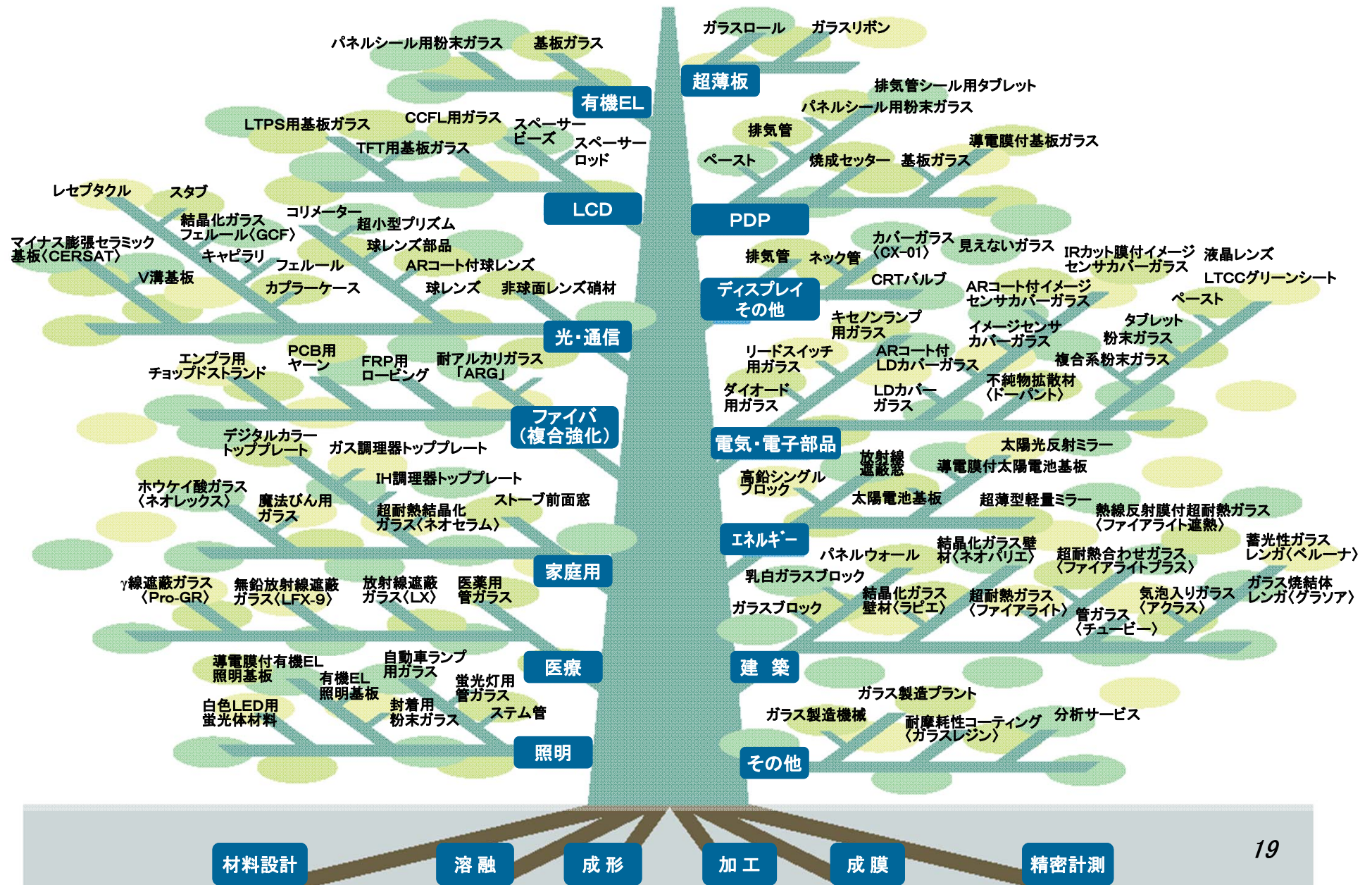
売上構成（12／3期）



主要な事業内容

電子・情報用ガラス	FPD	LCD：基板ガラス、バックライト用ガラス PDP：基板ガラス、ガラスペースト
	ブラウン管用	ブラウン管用ガラス
	光関連	光ファイバ接続用キャピラリー／フェルル 球レンズ／レンズ部品／非球面レンズ硝材
	電子デバイス用	粉末ガラス 板ガラス 管ガラス
	太陽電池用	太陽電池用ガラス
	カバーガラス用	化学強化専用ガラス＜CX-01＞
その他用ガラス	ガラスファイバ	機能樹脂用チョップドストランド プリント配線基板用ヤーン 強化プラスチック用ロービング 耐アルカリ性ガラスファイバ
	建築用	ガラスブロック 結晶化ガラス建材＜ネオバリエ＞・＜ラピエ＞ 防火設備用ガラス＜ファイアライト＞ 放射線遮へい用ガラス インテリア／エクステリア用ガラス
	耐熱用	超耐熱結晶化ガラス＜ネオセラム＞ 耐熱ガラス＜ネオレックス＞
	その他	照明用ガラス 医薬・理化学用ガラス 魔法びん用ガラス ガラス製造機械

(参考)未来へ向かう日本電気硝子の「ガラスの樹」



予想に関する留意事項

- ◆ 本資料に記載されている業績見通しは、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいて作成されたものであり、リスクや不確定要素を含んだものです。
- ◆ 実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。